

協 議 会 議 事 録

1 会 議 名	平成30年度 第3回 太宰府市地域公共交通活性化協議会
2 開 催 日 時	平成31年2月14日（木） 14:00～16:15
3 開 催 場 所	太宰府市役所 4階大会議室
4 出 席 者 名	寺町委員（会長）、清水委員、富永委員、川津委員、岡本委員、中井委員、 松尾委員、上田委員、山口委員、下園委員、鈴木委員、堺委員 ※議題1のみ 関係者（自治会代表）5名
5 欠 席 者 名	田中委員、駒井委員
6 次 第	【議題1】 太宰府市コミュニティバス（地域サポートカー「まほろば号」）のダイヤ改正について 【議題2】 太宰府市地域公共交通網形成計画（案）について ①まほろば号利用状況調査報告 ②公共交通網の課題の整理 ③基本方針（案）
7 開 催 状 況	 

8 審 議 内 容	
事務局	(開会挨拶)
都市整備部長	(挨拶) 本日は第3回の協議会ということで、前回いただいたご意見等を踏まえ、調査もしておりますのでその結果の報告も含め、ご協議いただければと思います。よろしくお願いします。
事務局	(資料確認)
会長	それでは早速、議事に入ることとして、事務局から資料の内容について説明をお願いしたい。
事務局	(資料説明：【議題1】について)
会長	湯の谷地域線、連歌屋地域線のダイヤ改正案を示していただいた。また、マミーズ閉店に伴うサポートカー撤退でどうしてもサービスレベルは下がってしまうが、この東観世地域線は連歌屋地域線との抱合せ運行という形で代替交通手段を確保すること。協議会としては同意ということでしょうか。
委員	異議なし
会長	では、本協議会としては事務局案に同意いたします。
事務局	(関係者退室)
事務局	(資料説明：【議題2】について)
委員	資料に前回のふりかえりの部分があるが、太宰府から南の二日市方面へ向かい、二日市から福岡方面へ北向きの移動をすることが不自然と記述している件、事業者としては、乗り換え抵抗の軽減のため、お客様の利便性向上のため、大宰府急行の増発などで、努力してきているなか、こういった流れの中で、この移動に関することを「不自然」という表現で、協議会資料の中にかかれると困る。
会長	そもそも鉄道は広域移動のためにある。具体的解決策として、市域内の問題であれば市内で解決することと思う。
事務局	公共交通網の考え方として、一つあるのかなということで前回の議事録から取り上げさせていただいた。コミュニティバスも北向きの方向があってもよいかも、という

	視点。なぜ市内から下大利に直接行けないのかという市民からの意見もあるため、近い視点の意見として抜粋させていただいた。
委員	まとめると、前回の協議会であった意見をまとめた議事録から抜粋して記載されたものであって、このこと自体を課題として扱うわけではないと思う。
委員	私の発言からかと思うが、太宰府から電車で二日市に行って、そこを経由して下大利へ行くということ自体を問題と捉えられるのであれば資料から省いてよいと思う。直接下大利に行きたいというのは対策が必要となるが、そういった意味合いとして残してよいと思う。
会長	事務局としてはどうか。
事務局	議事録の抜粋であるが、資料への記載内容を見直したい。また、水城から下大利は目の前にあるが、街路決定の際にうまくいかなかった。下大利へは、公共交通でのアクセスは地形地物の関係上無理であるとの判断。一方、白木原という案もあるとの意見をいただき、考えたところ、現道がしっかりあり水城からアクセスが可能、広域連携したコミュニティバスでのアクセスが可能ということで考えている。
会長	基本方針のイメージ図が2案あるが、下大利や白木原への市民のニーズの線は入っているか。また、地域幹線の線、つまり緑で示している線は、現状ではあるのか。
事務局	この2案は主に現状を示した図である。地域幹線の緑の線は現状ではない。都市計画にあるので入れている。
会長	そのあたりの整合性がよくない気がする。
事務局	西鉄さんがどうこうという話ではなく、市のコミュニティバスを含め、市民の皆様の移動手段、より良い移動の仕方を検討することが必要という意図で理解していただければと考える。
委員	「二日市で電車に乗り換えるというのは不自然」という表現が、利用していただいているお客様の移動を否定しているような書き方に見えてしまう。そういう点は事業者として辛いところがある。
委員	先程の2案で言えば、片方の案では西鉄太宰府線に広域幹線の色塗りが無い。また、ある部分は鉄道に任せればよいとか、市の姿勢が気になる。表現とか構成、説明の仕方の問題かと思う。
会長	太宰府市の駅のように、1時間に4本電車が通っているところは恵まれているので、

	大事に扱った方が良い。
事務局	わかりました。
委員	コミュニティバスの対象として、生活面と観光面があるとしている。例えば、渋滞対策として観光客を公共交通に誘導することを想定しているなどの観光の視点を強く入れるのかどうなのか、確認させてほしい。
事務局	現時点でコミュニティバスは5つの趣旨で運行しており、その中でも観光の視点は取り上げている。今後もその趣旨のもとに運行していく。渋滞対策と周遊の考え方があるが、それがうまくつながっていなかったかもしれない。
委員	税金を入れてでもやっていくということによいか。
事務局	今まではそうして維持してきたが、その判断は今後していかないといけない。観光周遊という点、今は天満宮にしか観光客が来ないということで、水城、政庁跡、天満宮の間での流れをつくりたい。観光周遊機能の維持という視点は、コミュニティバス運行の一つの要因として持っている。
委員	竈門神社へは現状コミュニティバスしか行っていないが、中型の路線バスでも十分行けると思う。例えば既存の事業者、路線バスを一部活用して観光の部分のカバーするとかできれば、乗車人数が倍になり、運賃も倍になるけれども、全体の運行効率化を図れて市の負担も減ると思う。
委員	良い案ですね。
会長	観光需要を上げていくという視点は重要。ただ竈門神社への路線は渋滞の根本の原因ではないので、渋滞対策には影響しないと思われる。引き続き公共交通機関の利用を促すという意味ではコミュニティバス運行の価値はある。今後、財政がきつくなってきたり何かを切らないといけないとなれば、効果の低いところから順々に切っていくべきで、その際、既存の事業者の活用等の様々なスキームを検討していくのもありだと思う。この協議会のミッションの一つとして、立地適正化計画の居住誘導区域を決める骨組みにあたる部分をどうするか決めていくという点がある。生活の視点と観光の視点は明確に分けた方が良い。太宰府市は観光都市であるので、観光用の検討をするというのはありと思う。
事務局	確かに竈門神社への路線は利用者が多く、増便についても協議したところである。この路線、観光ルートとなる路線については別の位置づけという形になるかとは思いますが、太宰府市の公共交通において観光は、検討が必要な視点と考えている。

委員	既存事業者の活用という話があったが、資料にあるイメージ図にはその区分はあるのか。担い手はまだ決まっていないということでしょうか。
事務局	事業者による色分け等はない。
委員	通勤でコミュニティバスの利用はあるのか。実際にコミュニティバスで担うべきなのかという話もあると思う。
事務局	今回の調査で私が実際に調査した大佐野台のバス停では、通勤利用はいないようだった。交通弱者のために、事業者のバスの初乗り 190 円に対して、コミュニティバスは 100 円で提供している。小学生等の通学利用者は交通弱者に当てはまる。通勤手当が勤務先から支給されている通勤利用者をどう考えるのかは難しい。
会長	大原則は、通勤は自力でという話もある。
委員	平日の利用状況調査結果を見ると、コミバスの遅延がないので、コミバスが渋滞の原因にはなっていないと思う。休日の利用状況調査がないので、休日のコミバス利用目的や渋滞の要因になっているかを知るために、休日の利用状況に関するデータといったものが必要になってくるのではないかと。
会長	必要な視点と思うので、実施可能か検討するとか、貴重な意見ということで対応していただければと思う。
委員	アンケートにある市民の意見は、選択肢を提示したのか、自由記述か。
事務局	選択肢として市の用意したものである、
委員	「行きたいところに行くバスがない」という選択肢がない。利用者の方の目的地は満足されているのか、どう考えているか。
事務局	二日市や下大利に行きたいという方はいらっしゃって、それに対する不便さのご意見としていただいている。ただ市内でいえば、市内の各駅にはコミュニティバスが通り、交通空白地域がほとんどないという結果になっている。
委員	そこで計画の作り方が変わってくると思う。全体を見直して目的地や路線を再編しようとするのか、今あるものを充実させようとするのか。そのあたりのデータをきちんと整理して、基本的なところを押さえた方が良い。
会長	現状を充実させるのか、不足分に手をつけていくのか。どう考えているか。

事務局	二択ではなく、現状を充実させながら、不足分に手をつけていきたい。現状では足りない部分が発生しているのではないかと考えていて、基幹路線だけでなく支線も充実させたい。
委員	水城、政庁跡、天満宮という回遊のルートをつくりたいという話があったが、それを必要としている人はいるのか。いなかったら、そのルートをつくと税金の無駄遣いということになってしまう。データをもっと揃えた方が良い。
事務局	観光に関しては、現状データを揃えられていない部分もある。また、そもそも天満宮以外が知られていないという状況もある。その掘り起こしからやっていかないとけない。
会長	基本方針のイメージ案2案について、幹線と支線をどこで切り分けるのか、どう条件づけするのか、案を作っておくべき。ラストワンマイルの話にもなるが、これを行なうとなるとかなりのエリアでやらないといけなくなる。また、先程担い手の話があったが、ここに記載する線はいずれも、行政が公金を投入してでも維持し続けるという宣言になるもの。その覚悟をもって設定を検討しないといけなくない。 また、利用状況調査結果について、路線毎に最大人数を出していただいた。これによってバスの車両の大きさが適正かどうか参考になるかと思う。今後検討の機会があれば参考に使えるのではないかな。
委員	今の話に関連して、竈門神社行きは1時間に2便といったダイヤであるが、運転手目線では1便で乗客20人またはそれ以上である。特に土日は乗車時にオーバーするので次の便を待ってもらおうという話もある。観光客のニーズに応えるには、月別、曜日別、時間帯別まで細かくみないといけないと思う。
委員	資料の見方を教えてほしい。41ページの表で1日あたりの合計乗降人数があり、乗車人数と降車人数で差があるが、この差はコミュニティバス以外の何かしらの手段の利用ということになるのか。
事務局	1日調査して、乗車された人数、それに近い人数が同じバス停で降車するかと思っていたのだが、実際には数人しか帰ってこられなかった。その分は、片道利用なのかなと考えている。
会長	ある種贅沢な悩みで、コミュニティバスに乗ろうとしたときに待ち時間が長ければ、その間にある鉄道や路線バス等他の手段を使ったり、買い物をして別の方向から帰ったりとか、色々なパターンが選択できるから発生する状況ではないかな。
委員	そうであれば、ニーズというところで死活問題になるほど必要なのかという見方もあると思う。その方法でどうにかなっているということで、厳しく言うと、切れる部

	分でもあるということでは。限りある資源をどう使うかという中で、必要なところがどこかというのを考えるべきかと思う。
会長	矛盾した見方になるかもしれないが、切れそうだとすることで路線を切ってなくしてしまうと、立地適正化計画の居住誘導区域を考える中では骨組みがスカスカになってしまう。
事務局	西鉄路線バスと市のコミュニティバスが並行して走っている路線、区間もあるので、そういった部分も検討していく必要がある。
委員	並行部分は、西鉄さんに適正な金額を払って乗っていただいた方が良い気もする。
会長	コミュニティバスの安さを取って長時間待つのと、それなりの金額を払って民間の公共交通を使うのと、ある意味コミュニティバスが民間利用を誘発しているという部分も考えられなくはない。そこをどうみるかは、相当詳細な調査を大規模でしないとわからないと思う。
委員	確認であるが、基本方針イメージ2案の幹線バスと支線バスは、コミュニティバスと路線バスを含めたイメージか。どういう根拠、役割分担で作成されているか。
事務局	支線バスの案は現状でいうコミュニティバスの地域線で、幹線バスが走っているところまで行って乗り換えるイメージ。緑で描いた幹線バスの線と、紫で描いた支線バスの線は、誰が運行しているかに関係なく現状のバス網をみたもの。その中で、主要な幹線道路を走るものは幹線バス、団地に入っていくものは支線バスと考えて色分けをしている。
委員	路線バスは自前で運営しているので、この方針図に縛られてしまう可能性が十分ある。具体的なイメージを出す際には、事前に相談いただき、連携させてほしい。
会長	別の地域での計画では、どこが運営しているかは関係なく、1時間あたりの運行本数が何本かという値で幹線とそうでない路線の2つのカテゴライズとしていた。本来は断面の利用人数で区分すべきかと思う。幹線と支線の定義をしっかりといただくよう期待する。事前に関係各所に情報を共有した方が良い。
事務局	改めて西鉄さんへ伺おうと考えているが、データの考え方を整理し、イメージ案を共有した上で次回協議会ではお出ししたい。太宰府市は大野城市、筑紫野市との関係の中で生活していくエリアなので、両市との協議を行い、精度の高いものをつくっていききたい。
委員	下大利につなげる線が描いてあるが、大野城市と調整はしているのか。

事務局	今後調整をしていく。
委員	基本方針のイメージ案が示されたが、この内容は、市長がそう考えていらっしゃるということで捉えてよいか。例えば、先程の観光の視点による周遊ルートや観光需要の掘り起こしは市としてそういった観光政策があるからなのか、市として生活居住区域を結びたいからこのイメージ案のように幹線を設定しているのか。
事務局	今のお話に関して、まだ確定というものではない。ただ市長としても観光、回遊性について取り組みたいという思いは強く持っており、広域連携についても大野城市、筑紫野市と連携していきたいと考えている。そのあたりを確認しながら、現在お示ししている案について検討していきたい。また、現在お示ししているのは、案というより、拠点と現況バス網をかぶせたものと考えていただけるとよい。イメージとして捉えていただき、市として考えるまちづくり、公共交通網を提案できるようにしていきたいと考えている。
事務局	(今後の予定について)
事務局	本日は色々なご意見、協議をいただきありがとうございます。議題1については皆様から同意をいただけたということで進めていき、議題2については今後さらに検討していきたい。 以上で第3回協議会を閉会とする。
事務局	(閉会挨拶)